

大安寺報

第80号



曹洞宗 圓祥山大安寺
住職：長岡 俊應
副住職：長岡 俊成
〒039-4401
青森県むつ市大畑町
本町 80 番地
Tel 0175-34-2926
Fax 0175-34-6426
E-mail info@daianji.jp
http://www.daianji.jp

名句・名言に学ぶ

人間を構成している成分は約一年で九〇％入れ替わる。
人間は川のように流れ移り変わる。本当の自分など存在しない。

養老孟司(解剖学者)

お彼岸は、み仏の世界にいらっしやるご先祖さまたちや亡き大切な方々を思い出し、供養をする機会です。大切な方を亡くした直後に多くの方が感じるのが「無常」の感覚ではないでしょうか？平家物語に「祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり」の一節で有名な、この「無常」は仏教用語であり「全ての現象は移り変わる存在であり、永遠不変ではない」という真実を表しています。しかし、そのことは理屈では理解できても、自分事として捉えることはできないものですが、大切な存在を亡くすることによって、そのことが身に染みて感じられるものです。冒頭のことばでわかるように、私たちのこの身体もまた無常なる存在であり、ほぼ

全ての細胞が約一年間で入れ替わると言われています。固定的なものと感じている骨もまたそうですし、私たちの心もまた常に変化しています。養老氏が表現するように、人間の身体も心も川のように流れ移り変わっており、「固定的な本当の自分」は存在しないのです。

にも関わらず、私たち自分の身体と心に執着し、こだわりを持ってしまいます。お釈迦さまは、そのことが私たちの中に苦しみや悩みを作り出す原因であるとお説きになつています。私も若いころは「本当の自分さがし」に明け暮れたものですが、お釈迦さまの教えにふれたことにより、むしろ「自分なくし」こそが幸せにつながるのだということを学びました。また、私という存在を成立させているのは、周囲の人たちの存在であり、ご先祖さまが与えてくれたつながりなのだということを知りました。このお彼岸、ご先祖さまや大切な方々により生かされていることに感謝し、そのつながりに思いを馳せてみませんか？ 合掌

行事予告

「キャンドルライト寺ヨガ2024秋」

キャンドルの灯が揺れる中、ヨーガ・坐禅を体験できる行事を開催します。日常を離れ、ご自身の身体と心に向き合う静かな時間を過ごしませんか？

- 日時：令和六年九月二十六日(木) 午後七時～九時(六時四十五分受付開始)
- 場所：大安寺本堂
- 定員：三十名(先着順)
- 講師：中島敬子・長岡俊成
- 参加費：五百円(当日申し受けます)
- 持ち物：ヨガマット(バスタオル可) / 動きやすい服装で/マスク/水分補給のできるもの
- 申し込み：左上の二次元コードをスマートフォンで読み取り、申し込みフォームに必要事項を入力の上で送信ください。



曹洞宗テレホン法話
曹洞宗宗務庁運営
0120-508-740
携帯の方は 03-3454-5410
※11月12日～18日
「同じ立場で」
(副住職担当)

曹洞宗テレホン法話
「心の電話」
東北管区教化センター運営
022-341-1531
http://soto-tohoku.net/
tel-sermons/



大安寺
公式ホームページ

スマートホン・タブレット端末のカメラ機能で読み取ってください。



大安寺
公式 facebook ページ

【法事依頼について】

- 電話、来寺、メールにて以下をお知らせください。公式ホームページからも依頼可能です。
- ① 供養対象の方(亡くなられた方)のお名前(フルネームでお願いします)
- ② 何回忌か、及び供養対象の方の命日
- ③ 希望日時(希望に沿えない場合があります)
- ※極力、前日までにあげもの(供物/内容自由)をお届けください。(花は任意)
- ※会場は原則的に当寺本堂です。
- ※塔婆料は一周忌・三回忌までは二千円、七回忌以降は五千円です。お布施と別にお渡しく下さい。
- ※当日は供養対象の方のお位牌を御持参ください。(位牌堂のお位牌でも可)
- ※当日は遅くとも五分前までに本堂にお越しください。(前の法事が終わっていない場合は、本堂向かって右の庫裡にある法要控室でお待ちください)

【維持費納入について】

○令和六年度維持費(四千元)の納付期限は令和六年十二月三十一日です。なお、期限を過ぎても納付可能です。納付忘れのないようお願いいたします。

仏事

Q&A 第五十五回

Q. 御霊前と御仏前の違いは何ですか？

A. 葬儀や法事の際に、お金をお包みしてお供えするのは、その故人に対しての想いや感謝の気持ち、ほとけの世界での安寧を祈る思いを形にしたものと言えます。それは本来、お金ばかりでなく、お花やお菓子、果物、お香など故人が喜ぶ思いのこもった品物でありました。葬儀の時にその気持ちを、お香代としての「御香典」、生花の代わりとして「お花代」としてお包みしてきたのです。お包みの熨斗書きについては、各宗教・各宗派によって違いが見られます。その表書きには、先に示したように相手(故人)に対して贈る品物名などを記す場合と、相手(故人)へ向けられることを示す場合に分かれます。故人の尊称とその前にお供えするという意味の言葉として、「御霊前」や「御仏前」と書かれているのです。曹洞宗の場合、書き方についての厳密な決まりはありません。一般的な社会通例に沿って、葬儀の際は「御霊前」、法事の際には「御仏前」と使い分けていただければよいでしょう。それ以外にも「御香典」「御香奠」「御供」「御供物料」なども使われます。出典：『仏事Q&A曹洞宗』(編：曹洞宗総合研究センター)

各種講座のご案内(令和六年九月～十二月)

- ◆「月例写経・写仏会」(予約不要)
日時：九月二十三日(月・振替休日)、十月二十日(日)、十一月二十四日(日)、十二月二十二日(日) 午後二時～三時
内容：三法話と写経・写仏と茶話会
場所：中広間 参加費：五百円 備考：椅子席
- ◆「暁天坐禅会」(予約不要)
日時：九月二十二日(日)、十月六日(日)、二十日(日)、十一月三日(日)、二十四日(日)、十二月八日(日)、十一月三日(日) 午後七時～八時十五分 ※坐禅指導希望の方は午前六時半集合
内容：禅語紹介と坐禅と法座 ※九月二十日は法座休止
場所：本堂 参加費：無料 備考：椅子坐禅可能 服装：動きやすい服装で。(スカート・ジーンズ不可)

行事カレンダー(令和六年九月～令和七年一月)

- 令和六年九月二十二日(日)・秋分の日
「秋季彼岸会法要」(本堂) 午前十一時
※同日午後二時より、「永代供養墓苑合同供養祭」※荒天時は本堂にて
- 令和六年十一月八日(日)
「成道会法要」(本堂) 午前十一時
※お釈迦さまの成道(お悟り)を開いたことになちなみ、報恩感謝する法要です。
- 令和七年一月一日(水・元旦) 午前〇時
「元朝大般若祈祷」(本堂)・「除夜の鐘」(鐘楼堂)

編集後記

今号の二～三頁では、檀信徒の皆様にご存知のなかったこと、よくお寺にお問い合せのあることについて「檀信徒の手引き」から抜粋してご紹介いたしました。完全版については事務室にて配布、また、公式ホームページにてダウンロード可能です。どうぞご覧ください。(副住職)

次号のご案内 令和六年十二月下旬に発行予定です。